All Rikkyo Tennis

セントポールテニスクラブ会報

発行所
セントポールテニスクラブ
発行人　白寄誠爾
桃井洋太郎
神田聡美

男子3部残留・女子2部3位

創部100周年まであと2年

「会長挨拶」

S42年卒　**倉光　哲**

OBOGの皆様に於かれましては益々ご健康でご活躍の事とお慶び申し上げます。

本年度は個人戦、リーグ戦共に不満足な成績に終わり、大変申し訳ありませんでした。その原因内容として、現状維持のテニスをしてしまったことが言えます。すなわち、男女ともストロークだけをとれば立教は一部校に近いものがあります。

しかし、テニスという競技は、いかに多くのショットの引き出しを持ち、相手より先手を打つか。勝つためには更に戦略が必要です。

期待を込めて敢えて厳しい言い方をしますが、このままだとリーグ戦においては男子三部、女子二部は確保できても、上部進出、又個人戦においてインカレ、オールジャパン選手になることは難しいと思われます。

最近の身近な例としては、日本人選手として世界ランク5位まで昇りつめた錦織選手は、マイケルチャンコーチがついてから成績があがりました。

その理由内容は、

①自分より上の選手に勝つには今までとは比べものにならない程のハードな練習内容とランニングを課せられたこと。

②ストロークラリーを今まではベースラインより2、3メートル下がって行っていたのをベースライン上、もしくは下がっても1mの位置で相手のスピンボールを踏み込んで凌ぐことにしたこと。それによって相手のボールが浅くなった時点で、すかさず攻撃に転じることが出来るようになったこと。先手を取れることにより、ドロップショット他の多くの引き出しを使え、スタミナのロスもなくなったこと。

以上のことが、チャンコーチに変わり大きく変化したことであり、現状から上を目指すには、自分から仕掛け、先手を取ることを絶えず考え、実行することが重要なわけです。

立教テニスも、世界の頂点を目指す錦織選手になれとは言いませんが、同じテニスで現状から上を目指し、彼を参考にし、頑張って欲しいと思います。

リーグ戦、個人戦まで十分に時間はあります。期待しています。

最後になりますが、OBOGの方々のこの一年の現役に対してのご支援に心より感謝いたしますと共に、二年後にせまった百周年を現役と共に一丸となり、二部以上で迎えたいと思いますので、併せてよろしくお願いいたします。

「理事長挨拶」

S61年卒　**山田　彰彦**

1986年（S61）卒山田彰彦です。いつもOBOG会へのご理解、ご協力と、現役に対する温かいご支援を頂きありがとうございます。

また、日頃から現役部員への指導や、その他サポート頂いているスタッフの皆様にもこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

さて、今年のリーグ戦は苦戦の連続で、本番前までの「備え」がいかに重要かということを思い知らされました。これを受けて現役新体制は近年にない厳しい取り組みを開始したところで、期待するところです。

今年も多くの活動を行ってまいりました。その中で、6月の総会で「部の方針」制定のご承認を頂きました。

これは昨年のARTでも触れました、3回目の体育会活動奨励金申請に部の方針を説明する箇所があり、第2回で作成された内容を磨くべく、学生とOBOG会関係者で十数回の会合を重ね作られたものです。それを当事者である学生が意識して諸活動を行ってもらうため、練習場所にも掲示しました。様々な活動がこの方針に適っているかの〝物差し〟になればと思っております。

スカウティングの場もこれを用い、高校生や高校関係者にも当部の考えが伝わるよう、且つ他大学との差別化にも繋がればと考え、活用を始めております。我々OBOGもその方針に沿った考えで、様々な支援ができたらと考えております。

また、千葉OBのご尽力で男子スペインフューチャーズ大会の予選出場を掛けたトーナメントを富士見コートで開催でき、運営を学生がお手伝いをするということで多くの学びがありました。試合は図らずも立教の学生同士で決勝を戦い、優勝者がスペインへの遠征という貴重な経験を得ることもできました。

関係校との連携である「ART活動」も盛んになってまいりました。春先の女子関係校練習会には、香蘭女学校高と共に立教女学院高の生徒さんも初めてご参加頂き、関係校同士の交流も始まりました。

また、日向野部長先生、稲垣先生のご尽力によって、リーダーシップ研修も秋に第3回目を行うことができました（経営学部が企業にも要請されて外部研修も実施している内容です）

この研修は大学側にも評価され、他部も活動を開始し始めたようですが、他部より先行して学びを深くし、部員の成長に繋がればと願うばかりです。

今後も定期的に実施したいと思っておりますので、ぜひOBOGの皆様にもご参加頂き、部員や関係高校部員との交流も図れればと思います。

こういった活動の源は皆様の物心両面に亘るご支援があってこそ成り立っている訳ですが、財政面では厳しい状況が続いております。

今年の団体戦では残念ながら男女とも掲げた目標は達成できませんでした。しかし現役諸君の日々の努力と、皆様の熱いサポートの力で着実に前進していると確信しております。

当部もあと2年で創部100周年を迎えます。ぜひともご関心を御寄せ頂き、ご支援頂きます様、よろしくお願い致します。

『準備の重要性』

S53年卒強化本部長　**鷲田　典之**

昨年、私はこのARTの原稿で、女子の寺田と吉田の活躍は、それまでの一試合、一試合の積み重ねの成果だと書きました。常々、私は学生や生徒達に「試合や仕事の結果は、それまでの準備八割、その日の頑張り二割で決まる。」と言っています。

今年の女子は、昨年まで四年間リーグ戦で活躍してきた選手四人が卒業したにも拘らず、大接戦の末、二部三位の結果を残しました。中心選手の一人である根本が留学で不在。初戦、主将でレギュラーの金子が病気で出場出来ず、第三戦で中心選手の盛重が捻挫で棄権。このような状況でも、部員全員がリーグ戦への準備をしっかりとやっていたということだと思います。一勝二敗で迎えた明大戦のダブルス、シングルスで接戦を制したのは、準備プラスその日の頑張りがあったからだと思います。シングルスでインカレ選手二人（内、一人はインカレベスト8）に佐藤が勝ったのも、過去三年間の準備と経験と今年一年間の準備とその日の頑張りがあったからだと思います。

一方、男子ですが、女子と同じくリーグ戦で活躍した選手が卒業して、レギュラーの多くが下級生という状態で臨みました。こういう若いチームは勢いに乗ると強いのですが、負けが込むと自信を失い、目標を見失いがちになります。一年の高畠と二年の菅野はそれなりの結果を残しました。これは、高畠は高校時代の経験と自信、菅野は一年間の準備が良かったからだと思います。しかし、この二人も筑波大学戦では勝つことが出来ませんでした。筑波大学に勝つ力を付けなければ二部に上がることはできません。この一年間でどれだけの良い準備が出来るかに懸っています。

来年に向けて、良い準備ができるように皆で努力したいと思います。

第十九回総会 開かれる

去る六月二十一日（土）セントポールテニスクラブ第十八回総会が、多数のOB・OGの方々のご出席を頂き池袋キャンパスの第一食堂にて開催されました。会計報告・予算・事業計画など慎重な審議が行なわれました。総会後は現役幹部を交え和やかな懇親会が開かれました。
下記に総会の決定事項をご報告いたします。

2014年度役員

	氏名	卒年	
会長	倉光　哲	1967	
副会長	林田千史	1968	
〃	浅見　豊	1974	
〃	中島幸彦	1975	
〃	原田　豊	1979	
顧問	岸本駿二	1952	
〃	山中　博	1961	
〃	小西一三	1962	
〃	出口誠之	1967	
〃	日向野幹也		テニス部　部長
理事長	山田彰彦	1986	
副理事長	永田良子	1985	副会計
〃	白寄誠爾	1990	総務
理事	濱野公哉	1967	
〃	鈴木　宏	1977	
〃	吉川裕子	1977	
〃	鷲田典之	1978	現役強化本部長
〃	加倉井　理	1979	
〃	山下節子	1980	
〃	黒坂美也子	1980	
〃	井上勇人	1983	
〃	庄野俊夫	1983	
〃	藤井孝信	1984	現役強化本部副本部長
〃	藤原誠之	1985	現役強化委員長
〃	柴原公博	1987	会計
〃	辻野廣行	1987	新任　IT・総務関連担当
〃	山田　昇	1990	テニス部　監督（男子・女子チーム）
〃	昆野　敦	1990	新任
〃	小田真義	1991	
〃	柳内　崇	1991	新任
〃	増田哲也	1992	ARTﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ委員長
〃	阿部　宏	1997	
〃	大熊隆史	1998	
〃	白井暁子	1999	
〃	井口郁子	2001	
〃	阿部研人	2007	総務担当
〃	五味晃一	2007	新任
〃	鏑木悠生	2007	新任
〃	浅野亜由美	2012	新任
監事	倉科鈴恵	1970	
〃	梅田憲司	1975	

② 100周年準備委員会

	氏名	卒年
委員長	濱野公哉	1967
副委員長	浅見　豊	1974
〃	梅田憲司	1975
委員	岸本駿二	1952
〃	小野眞義	1956
〃	瓦林聖児	1959
〃	八木下紗繪子	1961
〃	出口誠之	1967
〃	倉光　哲	1967
〃	林田千史	1968
〃	原田　豊	1979
〃	黒坂美也子	1980
〃	井上勇人	1983
〃	藤原誠之	1985
〃	永田良子	1985
〃	山田彰彦	1986
〃	白寄誠爾	1990
〃	大熊隆史	1998
〃	阿部研人	2007

（参考資料）

① 現役強化本部

	氏名	卒年
本部長	鷲田典之	1978
副本部長	藤井孝信	1984
テニス部　監督（男子ﾁｰﾑ・女子ﾁｰﾑ）	山田　昇	1990
○ｺｰﾁﾝｸﾞｽﾀｯﾌ		
テクニカルヘッドコーチ	小野田倫久	
テクニカルコーチ	堀　大器	
ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ、ｺﾝﾃﾞｨｼｮﾆﾝｸﾞｺｰﾁ	工藤健正	
特別コーチ	高野　泰	
ARTコーチ兼男女コーチ	増田哲也	1992
〃	昆野　敦	1990
〃	柳内　崇	1991
〃	五味晃一	2007
〃	鏑木悠生	2007
男子・女子ﾁｰﾑｺｰﾁ	佐藤智哉	2008
〃	松沼豊人	2013
女子ﾁｰﾑｺｰﾁ	寺田美邑	2013
〃	吉田恵美	2013
就職支援担当	増田哲也	1992
〃	白寄誠爾	1990
〃	昆野　敦	1990
〃	阿部　宏	1997
〃	手塚　絢	2012
〃	浅野亜由美	2012
〃	坂本拓斗	2013
〃	高橋勇佑	2013
〃	篠田翔平	2013
〃	山田真大	2013
奨励金担当	高橋勇佑	2013
〃	坂本拓斗	2013
〃	山田真大	2013

○現役強化委員会

	氏名	卒年
委員長	藤原誠之	1985
副委員長	藤井孝信	1984
委員	清　隆一郎	1988
〃	武市広治	1989
〃	小田真義	1991
〃	柏木二三子	2002
〃	五味晃一	2007

○ARTプロジェクト委員会

	氏名	卒年
委員長	増田哲也	1992
副委員長　池袋校担当	昆野　敦	1990
副委員長　新座校担当	柳内　崇	1991
副委員長　池袋校担当	村木祐介	1998
委員　関係校（女子）担当	黒坂美也子	1980
委員　関係校（女子）担当	山下節子	1980
委員　広報担当	小田真義	1991
委員　広報担当	足立充生	1992
委員　新座校担当	高橋泰洋	2007
委員	箭柏喬彦	2012
〃	手塚　絢	2012
〃	浅野亜由美	2012
〃	高津香和奈	2012
〃	国嶋　ひとみ	2012
〃	木田耕平	2013
〃	細田有里	2013

2014年度事業計画書

（自 2014年4月1日 ～ 至 2015年3月31日）

5月 15 日	第1回理事会（セントポールズ会館）
6月　～　日	関東高校選手勧誘視察（有明コロシアム）
6月 8 日	小野田プロコーチによるジュニアテニスクリニック（富士見テニスコート）　雨の為中止
6月 9 日	体育会OB・OGクラブ総会（太刀川記念会館）
6月 13 日	第1回100周年準備委員会（セントポールズ会館）
6月 15 日	フューチャーズWC予選大会の開催（富士見テニスコート）
6月 21 日	第19回定期総会（第一学食）
7月　日	第2回理事会（セントポールズ会館）
7月	第1回現役強化本部ミーティング（池袋）
7月	第1回アスリート選抜入試セレクト会議（セントポールズ会館）
7月	新座高校夏合宿への参加（新座）
8月 2～ 8日	インターハイ選手勧誘視察（有明）
8月19～23日	新座中学校夏合宿への参加（山梨県忍野村センターハウス）
8月	第2回現役強化本部ミーティング（未定）
8月	リーグ戦激励会（池袋）
10月	ARTプロジェクト委員会（未定）
10月	第3回理事会（セントポールズ会館）
10月	ARTトーナメント【学院選抜選手の個人戦】（新座キャンパスコート）
10月 19 日	第1回 リーダーシップ プログラム研修会（新座ｷｬﾝﾊﾟｽ教室）
10月	第3回現役強化本部ミーティング（未定）
11月 23日	小・中・高・大 合同練習会（新座キャンパス）
11月	新座市民スポーツ教室（新座キャンパスコート）
12月 7日	All Rikkyo Tennis 発行
12月 7日	納会（第一学食）
12月	ARTリーグトーナメント【学院選抜選手の団体戦】（新座キャンパスコート）
1月	第2回アスリート選抜入試セレクト会議（セントポールズ会館）
1月	第4回現役強化本部ミーティング（未定）
2月	第4回理事会（セントポールズ会館）
2月	ARTプロジェクト委員会（未定）
3月	ART女子合同練習会 立教女学院・香蘭女学校（新座キャンパスコート）
3月	第2回 リーダーシップ プログラム研修会（新座ｷｬﾝﾊﾟｽ教室）
3月	池袋中学・高校春合宿への参加（山梨県須玉）

2013年度事業報告書

（自 2013年4月1日 ～ 至 2014年3月31日）

4月 2 日	埼玉県高体連合同練習会（大宮第2公園）
4月 20 日	奨励金ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ慰労会（表参道）
5月 15 日	第1回理事会（セントポールズ会館）
5月 28 日	第1回 現役強化本部会議（池袋）
6月 8～9日	柳川高校視察（福岡）
6月 13 日	関東高校選手勧誘視察（有明）
6月 15 日	第18回定期総会（第一学食）
6月 16 日	小野田プロコーチによるジュニアテニスクリニック（新座キャンパスコート）
6月 18 日	体育会OB・OGクラブ総会（太刀川記念会館）
7月 11 日	第2回理事会（セントポールズ会館）
7月 19 日	関東ジュニア視察（千葉・白子）
7月 20 日	第1回 現役強化委員会会議（池袋）
7月 22～27日	池袋中学校夏合宿への参加（山梨県須玉）
8月 2～ 4日	インターハイ選手勧誘視察（福岡）
8月 17 日	リーグ戦礼拝と激励会（池袋チャペル・しゃぶしゃぶ店）
8月 23 日	第1回100周年準備委員会（セントポールズ会館）
8月 19～23日	新座高校夏合宿への参加（新座高校）
8月 20～24日	新座中学校夏合宿への参加（山梨県山中湖）
10月 6 日	新旧幹部引き継ぎ会議（池袋）
10月10 日	第3回理事会（セントポールズ会館）
10月27 日	大学王座観戦（同志社大学の応援）（有明）
11月 6 日	ARTﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ委員会会議（新宿）
11月 23日	立教学院 小・中・高・大 合同練習会（新座キャンパスコート）
11月 30日	ウイダー講習会（新座キャンパス教室）
12月 1 日	新座市民スポーツ教室（新座キャンパスコート）
12月 1 日	納会（第一学食）
12月 1 日	All Rikkyo Tennis 発行
12月 14日	日向野先生 BLP（リーダーシップ）研修（新座キャンパス教室）
12月 15日	視聴覚障害者との交流練習会（新座キャンパスコート）
12月 24日	関東高校選抜視察（千葉・白子）
1月 8 日	第2回 現役強化委員会会議（池袋）
2月 13 日	第4回理事会（セントポールズ会館）
2月 15 日	100周年座談会 1990年卒～1996年卒（セントポールズ会館）
3月 20～23日	全国選抜視察（福岡）
3月 26～30日	立教池袋中学・高校合宿への参加（山梨）
2月 25 日	中・高テニス部顧問との懇親会（池袋）
3月 27 日	ART女子合同練習会 立教女学院・香蘭女学校（新座キャンパスコート）

２０１４年度会計予算

（自 2014年4月1日 ～ 至 2015年3月31日）

収入の部

科目	予算額	摘要
1．年会費	2,400,000	10,000×240名（OB170・OG70）
2．会費収入	1,100,000	総会・激励会・納会・理事会出席者会費
3．雑収入	600,000	寄付金・広告費・受取利息等
4．100周年募金支援	1,500,000	現役強化費に充当
当期収入合計	5,600,000	
前期より繰越金	675,964	
収入合計	6,275,964	

支出の部

科目	予算額	摘要
1．現役強化費	3,960,000	
①ボール代	0	別途、指定寄付金から使用
②合宿援助費	600,000	夏合宿400,000・春合宿200,000
③サプリメント購入費	300,000	サプリメント購入補助
④レンタルコート費	250,000	（別途、奨励金72,000有り）
⑤リーグ戦前泊補助費	300,000	臨時交通費・前泊補助費等
⑥勧誘費（大会視察・高校訪問）	150,000	（別途、奨励金200,000有り）
⑦ART活動費	50,000	ARTプロジェクト委員会活動費
⑧プロコーチ（ﾃｸﾆｶﾙ）費	1,100,000	（別途、奨励金987,000有り）
⑨プロコーチ（ﾌｨｼﾞｶﾙ）費	60,000	（別途、奨励金240,000有り）
⑩トレーナー費	150,000	25年度実績120,000
⑪コーチ宿泊費・ウェア費	300,000	25年度実績270,000
⑫監督費・強化本部費	600,000	監督費300,000・コーティングスタッフ費300,000
⑬インカレ等遠征補助費	100,000	25年度実績80,000
2．会合費	1,000,000	総会・激励会・納会・理事会費
3．通信費	300,000	案内通知・ART発送費等
4．ART作成費	80,000	ART印刷費
5．諸会費	40,000	OBクラブ・監督部長会・合同練習会等
6．雑費	70,000	封筒代・文具代・名刺代等
7．手数料	80,000	年会費自動振替手数料・振込手数料
8．予備費	100,000	慶弔費・その他不足分補助費
当期支出合計	5,630,000	
次年度繰越金	645,964	

指定寄付金	予算額	用途
（OBOG会とは別会計）	500,000	ボール代

２０１３年度決算報告書

（自 2013年4月1日 ～ 至 2014年3月31日）

収入の部

科目	予算額	決算額	摘要
1．年会費	2,300,000	2,337,000	234名（OB168・OG66）
2．会費収入	900,000	1,079,000	総会・激励会・納会・理事会出席者会費
3．雑収入	800,000	586,165	寄付金・広告費・受取利息等
4．100周年募金支援	1,500,000	1,500,000	
当期収入合計	5,500,000	5,502,165	
前期より繰越金	215,475	215,475	
収入合計	5,715,475	5,717,640	

支出の部

科目	予算額	決算額	摘要
1．現役強化費	3,810,000	3,316,189	
①ボール代	100,000	125,580	※別途、408,240を指定寄付金から使用
②合宿援助費	600,000	600,000	夏合宿300,000・春合宿200,000・同志社遠征100,000
③サプリメント購入費	120,000	166,950	サプリメント購入補助
④レンタルコート費	100,000	237,367	※別途、72,000を奨励金から使用
⑤リーグ戦前泊補助費	340,000	112,200	臨時交通費・前泊補助費等
⑥勧誘費（大会視察・高校訪問）	150,000	153,546	※別途、194,560を奨励金から、212,060を指定寄付金から使用
⑦ART活動費	100,000	10,866	ARTプロジェクト委員会活動費
⑧プロコーチ（ﾃｸﾆｶﾙ）費	850,000	859,380	※別途、987,000を奨励金から使用
⑨プロコーチ（ﾌｨｼﾞｶﾙ）費	300,000	0	※別途、240,000を奨励金から使用
⑩トレーナー費	150,000	120,000	10,000×12回分
⑪コーチ宿泊費・ウェア費	200,000	270,300	夏合宿・春合宿・同志社遠征等
⑫監督費・強化本部費	600,000	580,000	監督費・コーチングスタッフ費
⑬インカレ等遠征補助費	200,000	80,000	インカレ交通費補助
2．会合費	1,000,000	1,062,597	総会・激励会・納会・理事会等
3．通信費	300,000	282,837	案内通知・ART発送費
4．ART作成費	80,000	80,000	ART印刷費
5．諸会費	40,000	30,000	OBクラブ・監督部長会・合同練習会等
6．雑費	70,000	53,950	封筒代・文具代・名刺代等
7．手数料	80,000	72,130	年会費自動振替手数料・振込手数料
8．予備費	60,000	143,973	慶弔費・その他不足分補助費
当期支出合計	5,440,000	5,041,676	
次年度繰越金	275,475	675,964	

指定寄付金	予算額	支出額	摘要
（OBOG会とは別会計）	350,000	620,300	ボール代・全国選抜視察

財産目録

科目	金額		摘要
流動資産			
現金	274,305		
普通預金	140,039		
立替金	261,620		
小計		675,964	
固定資産			
定期預金	404,860		
資産合計		1,080,824	

（参考）

100周年募金額（2014年3月31日）　　7,519,133 円

（参考：募金総収入額 12,781,000円　　現役強化支援として 1,500,000円 × 3回実行）

●大学からの奨励金予算　（2014年度）

単位：円

	予算額
①指導者招聘費（ﾃｸﾆｶﾙ987,000、ﾌｨｼﾞｶﾙ240,000）	1,227,000
②レンタルコート代	72,000
③全国選抜、インターハイ、有力高校等視察費	150,000
④有力高校への訪問	50,000
合計	1,499,000

●大学からの奨励金執行実績（2013年度）

単位：円

	予算額	執行実績
①指導者招聘費（ﾃｸﾆｶﾙ987,000、ﾌｨｼﾞｶﾙ240,000）	1,227,000	1,227,000
②レンタルコート代	72,000	72,000
③全国選抜、インターハイ、有力高校等視察費	150,000	150,000
④有力高校への訪問	50,000	44,560
合計	1,499,000	1,493,560

平成26年度リーグ戦結果

平成26年度関東学生テニスリーグ第三部結果表

	筑波大学	東京農業大学	日本体育大学	東洋学園大学	立教大学	関東学院大学	勝点	順位
筑波大学		8-1	9-0	7-2	9-0	6-3	5勝0敗	1位
東京農業大学	1-8		7-2	6-3	7-2	6-3	4勝1敗	2位
日本体育大学	0-9	2-7		5-4	5-4	5-4	3勝2敗	3位
東洋学園大学	2-7	3-6	4-5		5-4	6-3	2勝3敗	4位
立教大学	0-9	2-7	4-5	4-5		6-3	1勝4敗	5位
関東学院大学	3-6	3-6	4-5	3-6	3-6		0勝5敗	6位

平成26年度関東学生テニスリーグ第二部結果表

	日本大学	駒澤大学	立教大学	青山学院大学	東洋学園大学	明治大学	勝点	順位
日本大学		4-3	4-3	3-4	4-3	4-3	4勝1敗	1位
駒澤大学	3-4		6-1	3-4	6-1	6-1	3勝2敗	2位
立教大学	3-4	1-6		4-3	5-2	5-2	3勝2敗	3位
青山学院大学	4-3	4-3	3-4		2-5	4-3	3勝2敗	4位
東洋学園大学	3-4	1-6	2-5	5-2		5-2	2勝3敗	5位
明治大学	3-4	1-6	2-5	3-4	2-5		0勝5敗	6位

『泰然自若』

H２年卒監督　山田　昇

まず初めに、大学関係者の方々、OB・OG、コーチングスタッフの皆様、付属校の顧問の先生方、ご父兄の方々、日頃の活動に多大なるご支援・ご声援を頂戴し、誠にありがとうございます。厚く御礼申し上げます。

そのご声援やご支援の期待に対して、今年の活動結果に対しては、失望されている方も多いかと思います。監督と言う立場で、この発言はふさわしくないのかもしれませんが、今一番大事な事は、この結果に対して「一喜一憂」するのではなく、「泰然自若」としている事だと私は思います。もちろん、この結果に対する原因究明や課題の整理、それらを繰り返さない為の策を私の立場上、きっちりと学生たちと講じる覚悟で居ますし、学生にもその覚悟と責任はあると思っています。

男子チームについては、リーグ戦一勝四敗で三部五位という結果でした。四部との入替戦も辛勝で、かろうじて三部残留でした。過去三年間リーグ戦は四勝一敗で三部二位。二部との入替戦でしたから、比較すると下降したのは事実ですが、「結果」は「三部残留」です。入替戦前に、昆野コーチから戴いた言葉が印象的でした。「来年の二部昇格への挑戦権を勝ち取ろう」と。四連敗で迎えた最悪のムードの入替戦を、鏡主将・上野副将を中心として意地を見せてくれました。来年のリーグ戦は、今年のリーグ戦と「同じ状況」で迎えられるのです。正直、入替戦の前は、降格も頭をよぎりましたが、そこを学生は自力で挑戦権を獲得してくれました。この事は、敗戦の中にも「大きな財産」を残してくれたと思います。

女子チームにおいても、戦前の予想では、降格候補に挙げられるほど、他校や三部校の個人戦の戦績が充実しており、苦戦を強いられる事を覚悟しておりました。加えて、初戦で主将金子の急病による離脱、駒沢大学戦での盛重の負傷など、逆境に次ぐ逆境を、これでもかと跳ね返し、最終的には二部三位という見事な結果を残してくれました。主将の見事なリーダーシップ、佐藤の「意地」、大岩と的場の献身。逆境を見事に最上級生が跳ね返してくれました。最終戦で三位が決定した時の悔し涙は、「一部昇格」への本気度を再確認した瞬間でもあります。

監督をやらせて頂いて四年間。男子は五年前に四部から三部に昇格し、その後三年間二部入替戦に敗退したものの、三部二位で迎えた今年のリーグ戦。女子チームは、四年前に何度も壁に跳ね返され達成できなかった二部昇格を果たし、翌年は二部残留、そして昨年二部二位で一部との入替戦。この四年間は、「勝利」を数多く味わらせて頂いた上昇気流の四年間。学生は「勝利」する事が当然で、負ける事や、下降する事はあまり意識していなかったのだと思います。

私は、そのような四年間を過ごし、順調に上昇を続け、勝ち続ける事と同時に、どこかで負ける事も想定しているもう一人の自分も居ました。その時に、どう対応するのか、半分どこかで、壁を飛び越える前に、必ず落ちる事があると。

想定していた分、今年の結果は、どこかほっとしている自分も居ます。前述したように、これほどの逆境も、来年も今年と同じスタートラインに立てる。勝ち続けていたチームが、一旦負けると、勝つことの難しさや、勝つことの喜びも味わったでしょうし、逆境を乗り越えた者は、どうやれば逆境を乗り越えるかを学んだと思います。

四年前に、私は三つの目標を立てました。一つは創立百周年時に男女二部に居て将来王座優勝を狙えるようなチームの土台を作る事。一つは学生が主体となって活動を運営できるようにする事。もう一つは、卒業した学生が社会人となって、立派に活躍し、一人でも多く試合に観戦に来てくれる事。学生にとっての四年間は、社会勉強・修行の四年間なのです。

百周年まであと二年あまり。私の中では、目標は「計画通り」進行中です。男子においては、約二十五年間、二部には属していないのです。百年のうち残念ながら四分の一は三部以下。二部昇格はそうそう簡単には進まないのです。女子も一部に属していたのは数年間です。

今年の敗戦や逆境を乗り越えた事を活かして、次のステップへ進む為の、本当に大事な年だったと必ずや言える日が来ると。

それを残した今年の四年生にも、胸を張って卒業して欲しいと願っています。

「泰然自若」とし、戦いは「風林火山」の如く。

今後ともご支援・ご声援・ご指導のほど、よろしくお願い致します。

男子前主将　鏡　健斗

昨年度男子チーム主将を務めました、経営学部四年の鏡健斗です。OB・OGの皆様にはこれまで以上に多大なるご指導、ご声援を頂き大変感謝しております。昇格という結果で期待に応えることが出来ず、応援して下さった方々に申し訳ない気持ちでいっぱいですが、主将としての一年間はこれまでの人生の中で最も濃い一年間でした。「終わったようで終わっていない」というのが、現在の正直な気持ちです。第九八代の一年間を指揮した者として、今後のテニス部・後輩達が、どのように進んだとしても、その責任は私にもあります。

立場は変わりましたが、やることは変わらず、この立教大学体育会テニス部のために尽力します。今思うのは、卒業してからは何年経ってもOB・OGであり続けられますが、現役という立場は四年間しかないということです。後輩にはその時間を大切に過ごして欲しいと思います。最後になりますが、OB・OGの方々には心から愛して頂き本当に多くのことを学ばせて頂きました。私はテニス部のことが本当に好きで、OB・OGの皆様、監督・コーチの皆様、現役部員を信じています。私に何が出来るかは明確ではありませんが、一緒にテニス部としての目標に向かうことで、少しでも恩返しが出来ればと考えています。4年間、本当にありがとうございました。

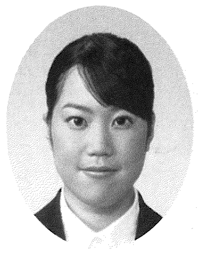
男子前主務　田口　陽平

前年度主務を務めさせて頂きました、コミュニティ福祉学部コミュニティ政策学科四年の田口陽平です。昨年の十月から一年間多大なるご指導、ご支援を頂き、ありがとうございました。

立教大学体育会テニス部での四年間は私の人生の中でかけがえのないものです。私はテニス部で一生の宝物となる多くの先輩方や後輩、そして同期と出会い、さらには、一人の人として大切な情熱や心構えを学びました。これらは、環境や立場が変わっても、私の助けとなると思います。テニス部で学びを胸に豊かな人生を歩んで参ります。

主務としての一年間は辛い思いもしましたが、多くのものを得た一年でした。苦しいときも同期や先輩方から手を差し伸べてもらい、乗り越えることができました。皆様から多くのご支援、ご期待を頂いたにもかかわらず、リーグ戦では下部との入替戦、残留という結果となってしまい、申し訳ありません。昇格を経験したことのない私たちは最後のリーグ戦でこそ、昇格したいと思っておりました。非常に悔しいですが、この想いは後輩たちに託し、来年こそは必ず昇格してもらいたいと思います。そのために今後はOBとして後輩を支えて参ります。最後になりますが、私が最高の四年間を過ごすことができたのは皆様のおかげです。四年間本当にありがとうございました。

女子前主将　金子　真奈



本年度主将を務めさせていただきました、コミュニティ福祉学部スポーツウエルネス学科四年金子真奈です。

本年度の二部リーグ戦は最後の最後まで結果の読めない、混戦となりました。最終戦においても、上入替戦や下入替戦の可能性もある中で最後まで誇りをもち、全員全力で戦い抜けたことは、まさにこれまで大切に築き上げてきた立教らしい「チーム力」の集大成でした。本年度、二部で唯一インカレ選手のいない立教は、傍から見たら降格すると思われていたかもしれません。しかし、OBOGの皆様も含め、全員が持っているチームへの強い想いが、どんな逆境も跳ね返せると、このリーグ戦を通して証明することができました。二部残留という結果に対し、悔しさを感じる半面、チームとしての結束は素晴らしかったとの声を多くの方々から頂戴し、主将としてこれほど嬉しいことはないと感じています。

来年度も一部昇格を目指しての戦いとなりますが、私たちが果たせなかったこと、課題を後輩たちに託し、次はOGという立場から立教テニス部を支え、昇格に貢献したいと思っています。

最後になりましたが、本年度も情熱を持ち、私たちと共に戦ってくださり、本当にありがとうございました。次年度も変わらぬご支援、ご声援の程宜しくお願い致します。

女子前主務　大岩　紗織

昨年度、主務を勤めさせていただきました、コミュニティ福祉学部スポーツウエルネス学科四年、大岩紗織です。

昨年度のリーグ戦は、二部三位という結果に終わり、チームの目標であった「一部昇格」、また自身の目標であった「最強のプレーイングマネージャー」という目標は、達成できませんでした。しかし、最終戦まで昇格・残留・降格の全ての可能性を秘めた昨年度。私はリーグ戦が終わると、昇格できなかった悔しさや申し訳なさ、一部の壁の厚さ、残留できた安堵感、様々なことが終わった達成感等、本当に色々な感情が込み上げてきました。

四年間を振り返るとあっという間でしたが、先輩の後ろに付いて行けばよかった今までとは違い、最高学年となり主務を任されたこの一年間は、とても内容の濃い一年でした。チームをまとめる難しさ、OB・OGの方々や他校との連携等、全てのことが初めてでしたが、それらは私を成長させてくれ、「主体性」の大切さを教えてくれました。時には困難なこともありましたが、私は立教大学体育会テニス部に入部し本当に良かったと思います。いつも暖かく応援してくださるOB・OGの皆様、私を近くで支えてくれた先輩・後輩・同期等、皆様に出会えたことに感謝すると共に、立教familyに加われたことを誇りに思います。四年間本当にありがとうございました。

新幹部紹介

男子主将　鈴木　理大

本年度主将を務めさせて頂くことになりました、経営学部経営学科三年の鈴木理大です。昨年度リーグ戦での三部五位、下入替戦にてかろうじて勝ち残留、という結果を省み、心機一転するところからのスタートとなりました。今のチームの現実、実力を受けとめ、再び一部復帰に向けての通過点である三部全勝優勝、二部昇格に向け日々這い上がって参ります。

入替戦で勝って、笑う。入替戦で勝つ為に、もう一度立教大学体育会テニス部の活動方針である「規律・団結・競争」の精神を再確認し浸透させる。それが私の役目です。個人の集まりであるチームに規律を以て接し、秩序を保ちます。苦しい練習を共に乗り越え、時に喝を入れ時に手を引っ張り、チームを団結させます。お互いが切磋琢磨し高め合い、チーム内外問わず常に競争意識を持って日々を過ごすチームになります。

最後になりましたが、OB・OGの皆様にはいつもご指導ご声援を頂き言葉だけでは感謝しきれません。この感謝を形にして表すとするならば、強くなるプロセスを踏み勝った私たちの姿を見せることのみです。今年昇格して、立教テニス関係者全員がこのチームの一員でよかったという誇りを分かち合うべく、今年一年間日々精進して参ります。今後とも変わらぬご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い致します。

女子主将　清水　理咲

本年度、主将を務めさせていただくことになりました、法学部政治学科三年、清水理咲です。昨年度は目標であった一部との入れ替え戦に挑むことが出来ず、二部三位の残留という結果でした。資格者が少ない中で、格上の選手への勝利やダブルスを全勝で折り返すなど成長を感じる場面もありました。しかし、二部校同士の実力が均衡していた中で、勝負強さや思い切りに欠ける試合もあり、勝てる試合を取りきれなかったことも事実です。この結果を受けて私たちが成すべきことは、今年こそ一部昇格という目に見える結果をきちんと残すことです。

今年度は、目指すべき一部校と同様の練習と共に、自分の現状や課題、勝つためには何をすべきかという意識を持って取り組みます。人が成長する時は、自らが変わるという気持ちを強く持ち、行動に移した時だと考えます。私は、練習で培った自信を胸に、堂々と戦えるチームづくりを行います。そのために、一球一球を無駄にすることなく、日々の練習に励みます。この一年間、主将として、選手として、人として、自らが姿勢と結果で示して参ります。

最後になりましたが、OB・OGの皆様には日頃よりご支援・ご声援を頂き、心から感謝しております。精一杯精進して参ります。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

男子主務　桃井　洋太郎

本年度主務を務めさせて頂くことになりました、現代心理学部映像身体学科三年の桃井洋太郎です。

昨年度は、三部五位という悔しい結果に終わりました。私が入部して以降のリーグ戦は、三年とも残留を経験しております。本年度こそは二部昇格を果たし、その後の一部、王座の舞台へとつなげて参ります。そのために、現役部員一丸となり、戦って参ります。

主務という大役が私に務まるのか不安な気持ちもありましたが、責任と誇りを持ってこの職務を全うすると決意しました。そして、今までご支援頂いたOB・OGの皆様に、期待以上の結果で応えていく覚悟です。

また、仕事面だけにならず、テニスにも全力で取り組みます。私は、リーグ戦に出場したこともなく、プレーという面でチームに貢献することが出来ませんでした。テニスで貢献できなかった分、最後の一年はテニス人生全てを賭けて練習に取り組んで参ります。リーグ戦での悔しさを次は自分のテニスで晴らす事を誓います。

そしてこの一年を、誰よりも立教大学体育会テニス部と向き合い、共に成長していきたいと思います。

最後になりましたが、OB・OGの皆様には日頃から多大なるご支援・ご声援を頂き大変感謝しております。今後ともご指導、ご鞭撻の程、宜しくお願い致します。

女子主務　神田　聡美

本年度主務を務めさせていただくことになりました、文学部教育学科三年の神田聡美です。

今年がいよいよ私たちにとって最後の1年間、リーグ戦となります。

リーグ戦は個人の力と団体の力の両方が必要とされます。個々人が明確な目標設定を行い、レベルアップを図りつつ、自分がチームを良くする為に何が出来るのかを常に考えることが重要です。新体制発足の際に掲げた方針が掲げただけで終わらないよう、あとは実行のみです。最高学年として実行する姿、行動で示すということを念頭に置きチームのベクトルが一つの昇格という方向にそろうように妥協せずに努めて参りたいと思います。

また、私はマネージャーという立場に転向致しましたが、プレーヤーとマネージャーの垣根を越えて、常にプレーヤーと同じ気持ちで、幅広い視野で客観的にチーム全体をマネージメント出来るよう精一杯努めて参ります。部員全員が自主性を持ち、一つ一つの練習に対してきちんとした明確な目標と意識を保てるような環境をつくっていきたいと思います。

最後になりますが、私たち現役の為に日頃よりご支援をしてくださっているOB・OGの皆様、支えてくださっているたくさんのスタッフの方々には誠に感謝しております。今後ともご指導、ご鞭撻の程宜しくお願い致します。

男子副将　吉澤　瑞樹

今年度男子チーム副将を務めさせて頂きます、コミュニティ福祉学部スポーツウエルネス学科3年の吉澤瑞樹です。

私は過去三回入れ替え戦を経験しています。その中でも、昨年度の入れ替え戦の持つ意味は過去の2年間と比べて大きく異なっています。過去2年は昇格をかけて戦う入れ替え戦でした。それまでと比べ、三部残留をかけて戦うこととなった昨年の入れ替え戦でした。同じ入れ替え戦とはいえ、チームとして目指していた場所での入れ替え戦の舞台はそこではありませんでした。

昨年なにがおこり、何故あのような結果となってしまったのか。全ては、「進む方向を見失った」この一言に尽きるのではないかと感じました。努力は、正しい方向に進み続けなくてはなりません。そして一年間正しい方向に努力し、進み続けることが出来て、初めて結果という形として現れると昨年実感致しました。そのため、今年度は最後まで何をするべきなのか、何をしなくてはならないのか、それが正しいことなのかを常に考え、前に進み続け、昨年の結果を払拭します。

最後になりましたが、OB・OGの皆様、日頃より多大なる御支援、御声援を受け賜り誠に有難うございます。今年度、昨年の結果を払拭し、必ずや昇格を現実のものとするため、部員一同精進して参りますので、ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い致します。

男子副将　菅野　貴仁

本年度、副将を務めさせて頂くことになりました、文学部史学科二年、菅野貴仁です。

今年のリーグ戦は三部五位という非常に残念な結果に終わってしまい、シングルス一として出場した私は、多大な責任を感じております。私は去年、自分一人が強くなるため日々努力をしてきましたが、今回の結果を踏まえ、それではいけないと痛感致しました。全部員が共に切磋琢磨し合い、強くなることが昇格には必要だと考えさせられました。今年は自分のことだけではなく、周りを鼓舞し、お互いに競い合うことで強くなることを成し遂げます。また、素晴らしい環境の中テニスができ、支えて下さるOB、OGの方々、コーチの方々には大変な恩を感じております。ですので、昇格という目に見える形で恩返しをします。

個人の目標としましてはインカレに出場することです。昨年度、後一歩のところでインカレ出場を逃しました。その悔しさは今でも鮮明に覚えております。今年度は必ずインカレに出場し目標達成致します。

辛いことや逃げ出したくなる時が来るかもしれませんが、その際はどうか一層のご指導とお力添えを賜りますよう、お願い申し上げます。副将としてこのチームを全力で支え、来年必ず昇格に導きますので、今後とも宜しくお願い致します。

男子副将　前島　克哉

本年度、副将を務めさせて頂くことになりました、経営学部経営学科二年、前島克哉です。

今年のリーグ戦は、私にとって悔いの残る結果となってしまいました。今まで練習してきたものや積み重ねてきたものが足りなかったから、今回のような結果に終わってしまったのだと思います。私自身、後の結果ばかり気にしすぎてしまい、今全力でプレーするという意識が薄れてしまっていました。そのため自分の思うようなテニスができず負けが続いてしまいました。

今回のような結果に終[illegible]

来年のリーグではその[illegible]副将を務めさせて頂くにあたり、[illegible]チームのために頑張っていこうと思います。

ミスを恐れず積極的にチャレンジして頑張っていこうと思いますので、今後ともご指導、ご鞭撻の程宜しくお願い致します。

女子副将　加藤　優里

本年度、副将を務めさせて頂きます、コミュニティ福祉学部スポーツウェルネス学科三年、加藤優里です。

昨年度のリーグ戦は、二部三位という結果に終わり、悔しさと同時にリーグ戦の厳しさを改めて感じました。一部の壁を乗り越えるには、昇格に向けて一年間をどのような気持ちで取り組み、実行できるかで決まり、一瞬も無駄にはできません。今年こそ昇格を成し遂げ、皆が笑顔で終われるようチーム一丸となって励んで参ります。

私は副将として、主将主務を支えながら、部員全員が率先して部を良くしていこうという主体性を持ち、お互いに信頼して高め合えるチーム作りに努めて参ります。そのためには部員一人一人を理解し、自分にもチームにも厳しく覚悟を持って取り組みます。テニス部に入部して、一人一人がチームのために、リーダーシップを発揮することが大切かを学びました。それを下級生にも伝えて気持ちを一つにし最高の団結力でリーグ戦に挑みたいです。また、今年のスローガンである「step by step, just do it」にもあるように一日一日を悔いなく大切に積み重ねていきます。

最後に、監督、コーチOB・OGの皆様にはいつもご指導ご支援を頂き心から感謝しております。昇格に向けて精一杯励んで参りますので、今後も宜しくお願い致します。

女子副将　根本　奈々

本年度、副将を務めさせていただくことになりました、異文化コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科二年、根本奈々です。宜しくお願い致します。

私が今一番強く感じていることは、沢山の方々や仲間への感謝の気持ち、そして今まで感じた悔しさ、全ての気持ちをぶつけ、「一部昇格」という結果にして恩返しをしたいということです。その為に、主将を支えるだけでなく、積極的に自分に出来る事を常に考え行動して参ります。

昇格する為に何が私達に足りないのか、昨年の取り組みを振り返ってみて、私達には更に個々の実力をあげること、一人ひとりが自分の役割に積極的に取り組むことが必要だと感じました。結果として反省にでた部分は、私自身、自分にもチームにも練習や私生活においても甘い部分があったからだと思います。今年は、その甘えを無くし、より互いに切磋琢磨しあえるようなチームを、自らの行動、プレーで責任を持ってリードしていきます。私達現役部員とともに、同じ目標に向かって支援してくださっているOB・OGの皆様、そして一緒に戦う仲間への感謝の気持ちを大切に取り組んで参ります。今後とも、ご声援の程宜しくお願い致します。

女子副将　盛重　翔子

本年度、副将を務めさせていただくことになりました、文学部教育学科二年、盛重翔子です。

今年は去年よりも降格した結果となり、非常に悔しい思いをしました。その事実を重く受け止め、来年こそ一部昇格するべく精進して参ります。今までのリーグ戦を通じて、リーグ戦は選手が頑張ることはもちろんですが、応援・審判などのサポートメンバーも当事者意識を持ち、与えられた役割を全うする必要があると痛感しました。今年のリーグ戦ではイレギュラーな事態が多々あり、不安に思う日もありましたが、それらを乗り越えられたのはチーム全員が一つになっていたからだと感じます。

昇格するためには、全員がお互いを思いやる仲間となり、また、ライバルとして意識を高め合い昇格するにふさわしいチームになる必要があります。そのために私は、常に高い意識を持ち練習に取り組み、自らが部のお手本となるよう努力致します。また、副将として主将をサポートするだけでなく、上級生と下級生を繋ぐパイプの役割としてより良いチーム作りに貢献していきます。

私たちはOB・OGの方々のサポートのおかげでこのような素晴らしい環境で練習を行うことができています。これからも感謝の気持ちを忘れずに練習に取り組んで参りますので、今後ともご指導よろしくお願い致します。

新入生紹介

1年　野村　京佑

愛知県私立名古屋高等学校出身経済学部会計ファイナンス学科一年の野村京佑です。

私は小学一年生の時にテニスを始めました。それからは学校が終わるとすぐテニスクラブへ行くという生活を送っていました。高校からは部活でテニスをする形になり、必ず団体戦に出場しようと思っていましたが、結果を残すことが出来ず実現させられませんでした。しかし悔いは残っておらず大学では趣味、遊びとしてテニスをしようと考えていました。そのため引退してからはあまりテニスをしない生活を送っていましたが、日に日にもう一度大学で挑戦したいという思いが強くなり立教大学体育会テニス部への入部を決意しました。

初めてのリーグ戦はサポートで、悔しい日々が続きました。その中でメンバーが毎試合苦戦しているのを見て、リーグ戦で勝つことがどれだけ難しいかを実感するとともに、来年こそは必ずメンバーになり勝ちたいという思いがより一層強くなりました。そのために今年一年毎日小さな事を積み上げていき、強い勝てる選手に成長します。

また日頃の練習やリーグ戦を通して監督、コーチ、OB・OGなど多くの方々に支えられているのだと感じています。日々感謝することを忘れず練習に励んでいきます。今後ともご支援、ご指導の程よろしくお願い致します。

1年　生松　剣也

東京都私立立教池袋高校出身、社会学部社会学科一年の生松剣也です。

私は幼い頃からテニスを始め、高校では立教池袋高校に入学し、テニス部に入部しました。高校時では二年、三年でメンバーに選ばれたものの、特に目立った戦績はなく悔しい思いをしました。

この悔しい思いを晴らすために体育会に入ることを考えていましたが、今まで頑張ってきた仲間も実際のところ入るという人はわずかで、不安を抱え悩んでいた時期もありました。しかしテニスに力を尽くせる環境の中で人間性を磨き、厳しい中でやり遂げる達成感を味わうために、私は入部を決めました。また高校の部活を通し、コーチ練や合宿など、当時お世話になったたくさんの大学生やOB、OGの方々への恩返しという意味もあります。

今回のリーグ戦では怪我による不調も重なり、サポートに徹する大変な期間でしたが、良い環境、同期、先輩にめぐまれたことで乗り越えることが出来ました。初めてのリーグ戦ではありましたが、チームで戦う大切さ、サポートが担う役割の重大さの多くのことを学ばせて頂きました。

来年こそは選手となり、後輩に自分の背中を追いかけてもらえるような先輩となり、昇格に必ず貢献します。これからも諦めず、日々精進しますので今後ともご支援の程宜しくお願い致します。

1年　鏡　悠斗

埼玉県私立立教新座高校出身、社会学部メディア社会学科一年の鏡悠斗です。

私は中学校入学と共にテニスを始めました。良い環境や恵まれた仲間の中で上達を図ることができたので、大きな戦績こそなかったものの、団体戦のメンバーとして第一線で戦うことができました。中学の引退後も、テニスの向上のための時間は惜しみませんでした。

しかし、私は高校二年時に肩の怪我をしてしまいました。休部する程にテニスから離れ、なにも成せないまま部活を引退して、今後テニスは辞めようと考えていました。が、そんな中、当時の顧問の方が激励の言葉を私に掛けてくださりました。その言葉を糧に、今もう一度大学でテニスに励んでいます。

初めてのリーグ戦はサポートとして動き、予想以上の大変さに見舞われました。しかし、体育会の洗練された組織力に触れることで、人間性を成長させることができたのも事実です。

体育会を通して自分に何か一つでも誇れるものを残すとともに、背中を押してくださった立教新座の顧問の方や、今まさにご支援を絶やさずにいてくださるOB、OGの方々への恩返しのために、私は日々を努めることを約束します。まだまだ実力の伴わない私ではございますが、来年こそは立教の目指す昇格に貢献できる選手になります。今後ともご指導、ご支援の程、宜しくお願い致します。

1年　小林　亜蘭

東京都私立立教池袋高等学校出身、社会学部メディア社会学科一年の小林亜蘭です。

私は、中学校入学と同時にテニスを始めました。中学、高校とテニスを続け自分なりに努力してきましたが、結果が出ず、投げ出しそうになることもありました。高校最後の団体戦の直前に、私は左腕を骨折してしまい、団体戦に出場することができませんでした。団体戦に合わせて練習してきた私にとって、出場できないことは何よりも悔しく、見ているだけの自分にいらだちを覚えることもありました。

結果が出なかったこと、また自分が結果を出せなかったことに対する悔しさ、そして今までの努力を無駄にしないためにも、私はこの立教大学体育会テニス部に入部しました。

初めてのリーグ戦を経て、様々なことを経験しました。一年生としての仕事をしながら、サポートに徹することの辛さ、大切さ、またチーム一丸となって戦うことの難しさに直面しました。辛いこともありましたが、それを共に乗り越えた同期や先輩方はかけがえのない仲間です。

また、今年のリーグ戦では、何より「勝つことの大切さ」を知りました。来年のリーグ戦で「勝ち」を得るためにも、自分が選手として出場し、勝利を得たいです。そのためにも日々の努力を怠らず、全身全霊で取り組んで参りますので、今後ともご指導の程宜しくお願い致します。

1年　高畠　寛

埼玉県私立秀明英光高等学校出身、立教大学社会学部メディア社会学科一年の高畠寛です。

私が立教大学体育会テニス部に所属した理由は、テニスを続けていくうえで技術だけでなく豊かな人間性を学びたいと感じたからです。

私は幼い頃にテニスを始め、たくさんの技術を学びました。自分から積極的に努力して、高校総合体育大会では団体戦で全国三位になることができました。その結果に満足した私は、大学ではテニスを辞めようと考えていました。そんな時、立教大学の練習に参加しないかと誘われ、当時主務であった田口さんに立教大学が目指す目標を聞きました。テニスの実力を伸ばすだけでなく、将来社会に出たときに活躍できる人間を目指すという考え方に感銘を受けた私は、立教大学に入学し、テニス部に入部したいと思いました。

テニス部に入部した私は大学での慣れない環境に戸惑い、苦労することも多々ありました。ですが、同時に多くのことを学びました。特にリーグ戦では一年生ながらもメンバーとして試合に出場した私は部員の想いを背負って戦う大切さ、代表としての品格、チーム一丸となって勝つ喜びを経験しました。

来年もメンバーに選ばれるように、そして来年こそは昇格できるよう毎日の練習に全力で取り組みますので、今後ともご指導の程宜しくお願い致します。

1年　山田　修成

埼玉県私立立教新座高校出身、経済学部経済政策学科一年の山田修成です。

私は父親の影響でテニスを始め、幼い頃から立教テニス部に関わりを持たせて頂いており、立教大学体育会テニス部に憧れを抱いていました。私は大学生になったら必ず体育会テニス部に入部すると意気込んでいました。

そんな中、中学高校とテニス部に所属していたのですが、部活動、勉学共に中途半端で何事にも全力で取り組む姿勢ができていませんでした。

私はこの学生生活に後悔の念を抱き、何とかして己を変えたいと強く思いました。高校の部活を引退した後、体育会テニス部について考えました。自分にできるのか、耐え抜く事ができるのかを考えると不安が募りました。そんな時、父に連れられて観たリーグ戦で、チームの緊張感、一人一人が勝利の為に全力を尽くしている姿に感銘を受け、自分もこの場で戦ってみたいと感じたので入部を決意しました。

実際に部員として初めてのリーグ戦を経験して、辛い事もありましたが、多くの事を学べました。サポートとして全てにおいて全力で取り組みました。半年という短い期間でも成長できていると感じます。

そしてこれからは、サポートではなく選手としてリーグ戦のコートに立つ為に努力を怠らず日々精進していきますので、今後ともご指導、ご支援の程宜しくお願い致します。

1年　山内　碧海

埼玉県私立立教新座高校出身、社会学部メディア社会学科一年の山内碧海です。

私は、八歳の時に近所のスクールでテニスを初めました。私にとってテニスは本当に楽しいもので、夢中で練習を続けていました。立教新座高校に入学してからは、初めて団体戦を経験したこともあり、勝つことを念頭に練習に励むようになりました。ただテニスをするのではなく、勝利するために必要なこと、に全力を尽くすことに楽しみを感じられるようになってきました。

入学後に体育会を知り、練習に参加させて頂いたり、リーグ戦をこの目で観て、体育会と関わる機会をたくさん頂きました。そうした中で、常に勝ちに執着する体育会の姿勢に憧れて、自分の目指すテニスができると感じ、入部することを決意しました。

私は今回のリーグ戦で選手として出場しました。ＯＢの方々や部員の想いを背負い、はりつめた緊張感の中、最後まで気を抜かず、勝ったときの喜びや、負けたときの悔しさなど、選手としての責任の重さを実感できた時期でした。

この多くの貴重な経験を活かして来年度も選手になり、部の勝利に貢献できるよう、日々精進して参りますので、今後ともご指導、ご声援の程宜しくお願い致します。

1年　小屋迫　茉那

社会学部現代文化学科一年の小屋迫茉那です。四月から男子部のマネージャーを務めさせていただいております。

小学校3年から中学卒業まで、私自身もテニスをしており、大学入学以前からテニスと関わる機会は多々ございました。加えて、真剣に、全力で何か一つのことに時間をかけて取り組むことができるのは、大学生活が最後ではないかと思い、体育会の活動に非常に惹かれました。こうした経緯から、テニス部に入部するに至りました。

これまでにリーグ戦、夏合宿を経て、テニス部の厳しさを学びましたが、テニス部の厳しさは、心身ともに強さを兼ね備えた人間になるための重要なものであると気づきました。そして、これまでのＯＢ・ＯＧの皆さまの積み重ねてきた立教大学体育会テニス部の歴史の重みを少しずつ学んでいく中で、どれだけ多くの支えのおかげで、毎日部活動を行えているのかという有難みを、非常に実感致しました。

マネージャーの仕事には、細かい規則や、マニュアルはございません。そうした点から、仕事における判断の難しさや、もどかしさを痛感することもございます。しかし、だからこそプレイヤーの喜ぶ顔を見ることができた時、非常にやりがいを感じます。これからも、プレイヤーの気持ちを常に考え行動し、全力で支えてまいりますので、よろしくお願い致します。

1年　菅沼　千紘

テニス部男子チームでマネージャーを務めさせて頂いております、経済学部経済政策学科一年の菅沼千紘です。

今までテニスの経験の全くない私がテニス部に入部するきっかけとなったのは、勧誘を受け練習を見に行った時のことでした。そこで、練習に真剣に取り組む先輩方の姿を目の当たりにし、私もマネージャーの仕事を通じて、目標に向けて頑張る人たちの役に少しでも立ちたいと感じました。そして、大学生活をこのチームの一員として過ごし、有意義なものにしたいという思いから入部するに至りました。

夏合宿、リーグ戦を経験する中で、テニス部についてたくさんのことを学びました。立教大学体育会テニス部の重みを感じ、これまでの歴史を築いてこられたたくさんのＯＢ・ＯＧの方々の支えがあるからこそ今のテニス部があり、こうして活動できることの有難みを感じております。また、リーグ戦では大きなご声援がどれほどに部員を後押しするのかを実感致しました。

テニスに関してわからない部分も多く、マネージャーとしてはまだまだです。しかし、それだけ多くのことをこの先吸収できると考えております。先輩方のご指導の下、何が自分にできるのかを考え、部員を支えられる存在になりたいと思います。これからも精一杯努力して参りますのでよろしくお願い致します。

1年　高埜　結子

男子部マネージャーを務めさせて頂いております、社会学部社会学科の高埜結子です。

私は大学入学当時から、この四年間で何か一つのことをやり遂げたいと考えていたため、体育会への入部を希望しておりました。その中でも体育会テニス部への入部を決めたのは、練習の見学をさせて頂いた際に、自分が部に対してどこまで貢献することができるのかを試したいと考えたためです。

夏合宿やリーグ戦を経験致しまして、マネージャーとして、様々な仕事を学ぶことができました。それと共に、ＯＢ・ＯＧの皆さんがここまで積み上げてきてくださった歴史の重さを肌で感じ、体育会テニス部の一員として活動ができることへの感謝と誇りを忘れずに活動していかなければならないという自覚が生まれました。

入部から６か月たった今も、至らない点も多く、まだまだ学ばなければならないことも多々ございますが、チームに欠かすことのできない存在となれるよう、精一杯の努力をして参ります。また、少しでも自分がチームの為にできることは何なのかを問い続けることを、常に怠らない姿勢でありたいと考えております。

これからも体育会テニス部の一員として、より一層の努力をして参りますので、変わらぬご声援をどうぞ宜しくお願い致します。

1年　田中　萌々果

経済学部経済政策学科一年の田中萌々果です。テニス部では男子チームのマネージャーを務めさせていただいております。

私自身は中学校、高校とテニス部に所属しておりました。六年間の部活動をやりきったことで、非常にたくさんのことを得ることができました。大学入学後、自分は何に力を入れていこうかと迷っている時期がありました。その時に体育会に所属している先輩に「最後の学生生活四年間で何かにとことん打ち込んでみないか。」と声をかけていただいて、それがきっかけで体育会に興味を持ちました。そして、自分もやっていたテニスに今度はサポートする側から関わっていきたいと考え、テニス部のマネージャーを始めさせていただくことにいたしました。

夏合宿、リーグ戦などと重要な経験を経て、マネージャーの仕事や体育会テニス部について、様々なことを学びました。特に、大勢のＯＢ・ＯＧの方々とお会いすることができた総会において、立教大学体育会テニス部が背負っているものの大きさを実感いたしました。多くの方々のお力添え、積み上げてくださった長い歴史、それらをより一層強く感じております。

選手をサポートするということは思っていた以上に難しく、上手くできない自分にもどかしさを感じる場面も多々ございます。それでも、先輩方のように立派にマネージャーの仕事をこなせるよう、努力して参りますので、これからも変わらぬご声援のほどよろしくお願いいたします。

1年　吉川　千晶

東京都私立田園調布雙葉高等学校出身、文学部文学科英米文学専修一年、吉川千晶です。

一年間の集大成であるリーグ戦も終え、テニス部に入部してから早いもので半年が経ちました。リーグ戦第三戦ではシングルスに出させてもらい、チームの勝ちに貢献することは出来ませんでしたが、一本を取ることがいかに難しいかを肌で感じることができ、強くなりたいと強く思いました。

また、リーグ戦を終えて、私は自分が所属している体育会テニス部が改めて好きになりました。先輩や同期が勝ち取った一本への喜びは、想像を超えるもので、サポートをして下さっている方の為に自分も頑張ろうと思うことができました。立教はテニスだけでなく、仕事面も重視しているという意味や、その成果をしっかりと感じることができ、今までやってきたことが間違っていなかったということに大きな達成感を覚えました。

私は立教の最大の強みはチーム力であると思います。監督、コーチ、ＯＢ、ＯＧの方を始めとするテニス部に携わっている全ての方の存在があるからこそ立教大学体育会テニス部があります。

自分が沢山の方々に支えられている体育会テニス部の一員だということに誇りを持って、昇格に向けて精一杯全力で部活に励みます。四年間、ご指導宜しくお願い致します。

1年　高柳　麗香

東京都私立富士見丘高等学校出身、経営学部経営学科一年の高柳麗香です。

春から立教大学体育会テニス部に入部させていただき、約半年以上が経ちました。慣れない環境の中、不安もありましたが、日々自分が成長している事を実感させられます。

初めてのリーグ戦を経験し、学んだ事は相手を思いやる気持ちです。どんなに苦しい時でも、同期や先輩方が必死にボールを追いかける姿や声を張り上げる姿を見て、パワーをもらいました。また選手は応援のために、応援は選手のためにとお互いが自分の最大限の力を尽くそうとする気持ちが、部員皆を一つの絆で結んでくれる事を実感しました。リーグ戦で私はサポート側として貢献する事しか出来ませんでしたが、立教という看板を背負い戦えた事を誇りに思います。リーグ戦を通じて、感謝の気持ちや思いやりの心を持つことの重要さを改めて感じさせられました。

私がこうしてテニスを通じて成長出来る環境にいれるのは、家族を始め、私たちを支えてくださっているＯＢ、ＯＧの皆様のサポートのおかげです。常に感謝の気持ちを忘れずに、私生活でも人のために、尽くす事が出来るような人になる事を目標にします。これからもよろしくお願い致します。

1年　**浅山　貴和子**

埼玉県私立浦和学院高等学校出身、社会学部社会学科一年、浅山貴和子です。

立教大学のテニス部に入部し、約半年が経ちました。勉学や部活動で忙しい毎日ですが、充実した日々を過ごすことが出来ています。入部当初は、部活に対する不安もありました。しかし、練習に妥協を許さない先輩方の姿を見て、私もこの部活で頑張りたいと強く思うようになりました。人格の高い先輩方に囲まれ、大好きなテニスをすることが出来る環境に感謝し、大学四年間を全力で頑張ります。リーグ戦では、単複ともに選手として、出させて頂きました。大学に入ってから初めての団体戦で緊張もしましたが、先輩方や同期と団結して戦うことの素晴らしさを学びました。また、リーグ戦を通し、技術面や精神面で改善していくべき点も見つかりました。リーグ戦は自分自身が成長するきっかけになり、得られたものはとても大きかったです。この経験を活かし、来年こそは昇格の力になれるよう、日々練習に精進して参ります。

最後になりましたが、監督、コーチ陣、OB・OGの方々の支えがあるからこそ、私たちは不自由なくテニスをすることが出来ています。この恵まれた環境に感謝し、これからも精一杯頑張りますので、ご指導のほどよろしくお願いいたします。

1年　**中込　理緒菜**

東京都私立立教女学院高等学校出身、文学部教育学科一年、中込理緒菜です。

入部してからリーグ戦を経験し、約半年が経ちました。今まで本格的な部活を経験したことのなかった私には、すべてが初体験で、厳しい状況も多々ありました。しかし、今ではこの部活に所属していることに誇りと喜びを感じています。それはやはり、リーグ戦で先輩方の輝く姿を目にし、指導、応援してくださるOB、OGやコーチの存在があるからだと思います。そして、テニス面ではもちろん、人間としても大きく成長できるこの部活に所属できていることをとても嬉しく思います。

今年のリーグ戦では、サポート側としてでしたが、チーム一丸となって戦っているという感覚と、勝った時の感動を得られたことは私の中で大きな経験となり、来年はプレーで力になりたいという活力になっています。

また、付属校出身であるということを利点にして、立教大学と立教女学院高等学校との関係を深め、良い架け橋となれるよう精一杯努力してまいります。

最後になりましたが、このような素晴らしい環境でテニスが出来ることに感謝し、一球一球を大切にして、日々精進してまいりますので、今後とも宜しくお願い致します。

1年　**中西　萌夏**

東京都私立富士見丘高等学校出身、現代心理学部心理学科一年中西萌夏です。

私は富士見丘で中学生の頃から数々の団体戦を経験してきました。たくさんの実力のある選手が地方から入学し、個々のレベルが非常に高く、そのような中で行われた試合はほぼ優勝でした。

そして立教大学に入学し早半年が過ぎました。二部校は実力が均衡していて、いつ降格してもおかしくない、また昇格のチャンスがある、と言われた中行われたリーグ戦は、毎試合ごと緊張するものでした。しかし、このリーグ戦を通して、私は立教大学のチーム力というものに一番感動しました。練習のなかでもそれは切に感じられました。実力が均衡していることによって、皆が切磋琢磨し、全員で実力をあげ、誰か一人でも何か起こったら、皆でサポートするという姿勢や、監督・コーチ、OBOGなど沢山の方々に支えられているというこの素晴らしい環境に感謝し、立教大学に貢献できる人材になりたいと強く思いました。これからも一部昇格への戦力になれるよう精一杯努力しますので、どうぞよろしくお願いします。

1年　**北島　有澄香**

富山県立富山中部高等学校出身、コミュニティ福祉学部スポーツウェルネス学科一年、北島有澄香です。

私事ですが、私は昨年まで他の大学に在籍しておりました。高校生の時からこの立教大学体育会テニス部に入部してテニスに打ち込みたいという思いがあり、一度他の大学への入学を決断したものの、その目標を諦めきることができず、今年立教大学に入学することになりました。去年一年間は大好きなテニスから離れ、勉学に励んでおりましたが、自分の思うようにいかず、思い悩むことも多々ありました。しかし、立教大学体育会テニス部に入部した今、このような環境でテニスができるということを大変嬉しく感じると同時に、この新たな環境で新たな目標に向かって頑張りたいという思いで満ち溢れています。

今年の夏、サポートとしてリーグ戦を経験して、立教大学体育会テニス部に携わっている様々な方の思いを目の当たりにしました。先輩方はもちろん監督やコーチ、OBOGの方のお力があってこそ、このチームが成り立っているのだと実感しました。

今年は二部三位という結果に終わり、昇格には惜しくも届きませんでしたが、この信頼できる最高の仲間と切磋琢磨しながら来年こそ昇格に向けて、日々の練習に励みたいと思います。今後ともご指導の程よろしくお願い致します。

OB・OGの声

『本質に目を向ける』

H19年卒　**五味　晃一**

SPTCのOB・OGの皆様、また現役におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

近年、現役と携わる中で勉強していること、それは本質に目を向けるということです。

現在大学でトップの早稲田のようになりたいと、見た目を真似ても、早稲田のようにはなれません。

全国から集まった選手同士の激しい切磋琢磨、日本のトップ選手を身近に感じられる環境、練習方法、常勝軍団としての誇り、伝統の重みなど、それこそが早稲田が日本一たる本質なのです。

何かを参考にするとき、どうしても枝葉に目が行きがちですが、幹の部分をしっかりと捉えていきたいと感じています。

形から入ることは大切ですが、形だけで終わらないように、日々の活動に意味を見出して取り組んでいきたいと思います。

最後になりますが、皆様のご健勝とご健康、現役の昇格をお祈り申し上げます。

『ぶどうの木』

H24年卒　**浅野　亜由美**

突然の寄稿のお話を頂戴し、ミッション系の大学ですので私が理事になることをお引き受けした理由を聖書の内容に絡めてお話をさせていただきます。

聖書の中に「私はまことのぶどうの木、あなた方はその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。」という箇所があります。ここで言うぶどうの木というのはイエス様の事を指しますが、これを身近なものとして捉えて考えてみるとテニス部なのではないかと私は考えています。特にここ数年ダイバーシティ（多様性）ということを掲げていますが、これは多くの経験を通して社会で活躍できる人材としてテニス部を卒業していって欲しいという想いからだと理解しています。4年間の部活動の中で多くのことを学び、成長する。これはまもなく樹齢100年を迎える立教大学体育会テニス部というぶどうの木に繋がっているからこその、学びと成長の機会です。ここには自分という枝を成長させるための水分、栄養分、愛情が溢れています。代交代をしたことで直接重なる後輩は卒業となりましたが、先輩方へのお礼と、大学で働いているという立場もあり、微力ながらも私にも何かできればと思い理事をお引き受けした次第です。

現役の皆さんには、もちろん昇格という目標に向かって日々努力を重ね、目標を達成して欲しいのは前提としてありますが、日々の取り組みを通してぶどうの木にしっかりとつながり、人としても豊かに実を結でくれることを願っています。

ARTプロジェクト委員会

「活動報告」

H4年卒　**増田　哲也**

ARTプロジェクト委員会は、2010年11月23日の学院合同練習会の後、立教テニス全体の底上げと強化、そして社会に貢献できる人材の育成を目的に有志により活動を開始いたしました。

2011年度より正式にSPTCの一組織として、関係校の連携強化や選手の育成、また学院合同練習会の運営などを行ってまいりました。4年目を迎え活動も軌道に乗り、学生を中心に各活動を進めています。

【1】池袋・新座中高について

関係校の池袋・新座中高へは、コーチ派遣、練習指導、夏合宿および春合宿参加、公式戦の応援・指導などを行っています。特に副委員長の昆野OB（1990）・柳内OB（1991）には練習指導、公式戦応援・指導など大変ご尽力いただいており、中高との連携も大変強化され、良好な関係ができております。

【2】学院合同練習会
2013年11月23日

今回も新座中高のご協力により12面のコートを使用して行われました。男子チーム・女子チームが協力し、学生主体で準備運営しております。小中学生や高校生を指導することが学生にとって大変良い経験になっています。

【3】第3回女子合同練習会

（香蘭女学校高等科・立教女学院高校）
2014年3月27日

女子合同練習会は今年で3回目を迎えましたが、今回初めて立教女学院高校テニス部員の皆さんにご参加いただき、歴史的な練習会となりました。生憎の雨で練習はほとんどできませんでしたが、学生の機転で校内見学や交流会を行い、大変賑やかな女子会になり盛り上がりました。今後も女子関係校との交流がますます盛んになるよう活動を続けていきたいです。

【4】第4回 小野田プロによるジュニアテニスクリニック
2014年6月8日

今年度は講談社1995千葉OBにご尽力いただき、Road to Spainチャレンジカップと同時開催の予定でしたが、雨天のため中止となりました。何カ月も前から準備を重ねた学生たちには残念な結果でしたが、学外からの参加者を対象にしたイベントの企画・準備から多くのことを学んだようでした。

◎ARTプロジェクト委員会では、学生によるイベントの企画運営を通しサービスラーニングを実践しております。

団体1件

部名	戦績
ローラーホッケー部	第55回全日本学生ローラースケート選手権大会　男子優勝 第26回全日本ローラーホッケー選手権大会・女子の部　優勝

個人8件

部名	氏名	年次	戦績
陸上競技部	岡田久美子	4	第82回日本学生陸上競技対校選手権大会　女子10KM競歩　優勝
ボート部	松本愛理	3	全日本選手権　女子シングルスカル　5位
テニス部	寺田美邑	4	平成25年度　全日本学生テニス選手権大会　シングルス　Best8 ／ ダブルス　Best16
テニス部	吉田恵美	4	平成25年度　全日本学生テニス選手権大会　ダブルス　Best16
馬術部	川添翔太朗	4	第84回全日本学生馬術選手権大会　2位
相撲部	坪井卓郎	4	第38回　全国学生相撲個人体重別選手権大会　65kg未満級　優勝
水泳部	杉崎可奈	2	第54回日本選手権（25m）水泳競技大会　50m平泳ぎ　優勝
スケート部	中村健人	4	全日本学生選手権　Aクラス　2位　および　全日本選手権　6位

体育会OB・OGクラブ表彰

今年一月の体育会総会で、テニス部から、寺田・吉田の両名が表彰の栄誉を受けました。

女子部が一部昇格した平成11年に受賞して以来15年振りの快挙です。

寺田　　吉田

学生のリーダーシップ活動について

テニス部では様々なプログラムを通してリーダーシップやダイバシティ活動の機会を作り、活動を積極的進めています。

【1】東日本ろう者テニス協会の選手との交流試合
２０１３年12月15日

【2】第2回リーダーシップ研修会
２０１３年12月14日

【3】ウィダー講習会
２０１３年11月30日

【4】朝日新聞チャレンジA
子どもたちのスポーツ体験の指導・手伝い
２０１４年３月16日

【5】Road to Spainチャレンジカップ予選大会運営
２０１４年６月15日

【6】朝日新聞チャレンジA
子どもたちのスポーツ体験の指導・手伝い
２０１４年７月６日

【7】楽天オープン販売ブース手伝い
２０１４年９月27日～10月５日

【8】第3回リーダーシップ研修会
２０１４年11月８日

Road to Spain チャレンジカップ（高畠優勝）

朝日新聞チャレンジA（杉山愛プロを囲んで）

中学・高校通信

立教池袋中学校
「立教池袋中活動報告」

顧問　重原　康秀

『立教池袋中活動報告』

●都ブロック団体戦
～優勝～
二回戦四－一対巣鴨
三回戦四－一対芝浦工大
準決勝三－〇対高島二
決勝　三－〇対学習院

●都総体団体戦
～ベスト十六～
一回戦五－〇対府中三
二回戦三－二成城学園
三回戦二－三対早実

●都新人ブロック個人戦
S準優勝　齋藤
五位　地主
D優勝　齋藤・地主

●都大会新人個人戦
Sベスト三二齋藤、地主
Dベスト十六齋藤・地主

●都大会新人団体戦
～第三位、関東出場～
二回戦五－〇対芝
三回戦三－〇対砧
四回戦三－〇対武蔵
五回戦三－二対成城
六回戦三－一対小金井一
準決勝〇－三対小平二
三決　三－一対成城学園

●顧問より

課題を持って練習に励んだ。派手なショットは無いが頭を使った試合展開、そして信頼できる仲間の声援を武器にすれすれの勝利を勝ち取った。夏に合宿を経験しなかった一年生の目の色も、試合を重ねるごとに精悍に変わっていった。次は関東上位進出、全中出場を実現するチームとなるべく努力を続けていきたい。

有明会場で応援に駆けつけてくれた体育会女子部員、ART関係者各位、特に練習試合・公式戦の度に足を運んで下さった昆野氏に謝意を表したい。

立教池袋高校
『2014年度の歩み』

顧問　吉田　清典

2014年度の歩みは、初めての中高合同開催の春合宿でスタートしました。高校側は、体育会テニス部総勢8名を指導陣に迎え、実施されました。振り返れば2013年秋、ミーティングにおいて〝練習試合を増やす〟、〝オンコートでのトレーニングを増やす〟ことを部員全員で決め、春までの長い蓄えの時間を過ごしました。

五月のインターハイ東京予選（団体の部）は主将・田嶋一仁、副主将・山上貴士、主務・武田有弘、副主務尾谷昂大が率いるチームで挑みました。結果は6Rで早稲田実業高に1－2。シングルス1の甲賀光（高三）が勝利したものの対抗には破れ都ベスト16。高校三年生最後の試合となりました。この二年間、本校出身者が体育会へ続けて入部しています。現高三も、日頃から高い意識で取り組む代で更なるステージでの活躍に期待したいものです。

代替わり後の新チーム四役（高二）は主将・高橋暉、副主将・齋藤航輝、主務・小島怜央、副主務宮川真央が選任されました。秋の新人戦（個人の部）では、齋藤航輝（高二）がシングルスで学校ポイント（25点）を獲得しました。しかし、チームとしては都19位に留まり、二年連続で上位16校に入ることができませんでした。秋の都団体戦へ進むことができなかったこの悔しさを再出発の原動力にするのみです。

立教新座高校
全国大会出場を目指して

顧問　平山　晋

立教新座高校テニス部は「団体戦での全国出場」を最大の目標に日夜練習に励んでいる。

本年度のチーム（現高三生）は、主将の佐藤を中心に三年生二〇名、二年生二四名、一年生二七名、計七一名の大所帯である。

戦績の方も、本校が実施している推薦入試も四回を迎え、中学時代に関東レベルの戦いを経験している生徒が、毎年数人、入学してくれるようになったため、少しずつあがってきている。

この春の関東予選の団体戦では5位、個人戦でも、二年の尾島がシングルでの関東大会出場にあと一歩のところまで行った。インターハイ予選団体戦でも、決勝に進出したものの、一対二で惜敗した。浦和学院にダブルスを取ったものの、一・二年生主体のチームで、県内の強豪校と戦ってもある程度の戦いができるようになった。

新チーム（現高二生）でも、選抜形式の対戦（二複三単）で戦う、福島県南サマーフェスティバルで2年連続の優勝、新潟県高等学校テニスフェスティバルでは準優勝（優勝は法政二高）、埼玉県高体連主催のコバトンカップ（複三本）でも3位と、例年になく好成績を修めることができた。

その勢いで、久しぶりの関東選抜をかけた新人大会では、上位四校によるリーグ戦に出場し、

対　川越東　一対四
（複一対一、単〇対三）
対　浦和学院　二対三
（複二対〇、単〇対三）
対　秀明英光　四対一
（複二対〇、単二対一）

の計一勝二敗の第三位となり、惜しくも関東選抜出場にはならなかった。しかし、選手はもちろんのこと、応援の部員も一帯となり、立教新座らしい戦いができた。

テニスは自己表現のスポーツだと、常にテニス部員には伝えている。自己表現するためには、自分への自信が不可欠である。そのため、自分に向き合い、自分の武器・弱点を見定め、常に自己を向上させる努力をすることが必要である。練習の時から、常に闘い、勝利にこだわる雰囲気を部全体で作れたとき、今までの埼玉県のベスト四の殻を破り、関東・全国大会出場への道が開けるであろう。

また、多くの卒業生の皆様にもコートに来ていただいて、強い立教復活に力を貸していただけたら幸いである。